6-30　実践協力校における実践
事例㉚　海老名市立社家小学校（２年生・生活科）
「これまでのわたし　これからのわたし」

Ⅰ　学校全体における取組

（１）学校教育目標及び重点テーマ

本校では「心身ともに健康で、心豊かな子の育成」をめざし、①自ら学ぶ子②思いやりのある子③礼儀正しい子④たくましい子の４つの学校目標を掲げており、この学校目標の具現化に向け、令和７年度から「『つながる力』の育成」を重点目標としています。具体的には『つながる力』として「他者とのつながりのなかで課題を解決する力」「主体的に学びを深められる力」「対話力&共感力」「リーダーシップ&フォロワーシップを発揮できる力」の４つの力を挙げ、様々な教育活動を進めているところです。

（２）校内授業研究のテーマ

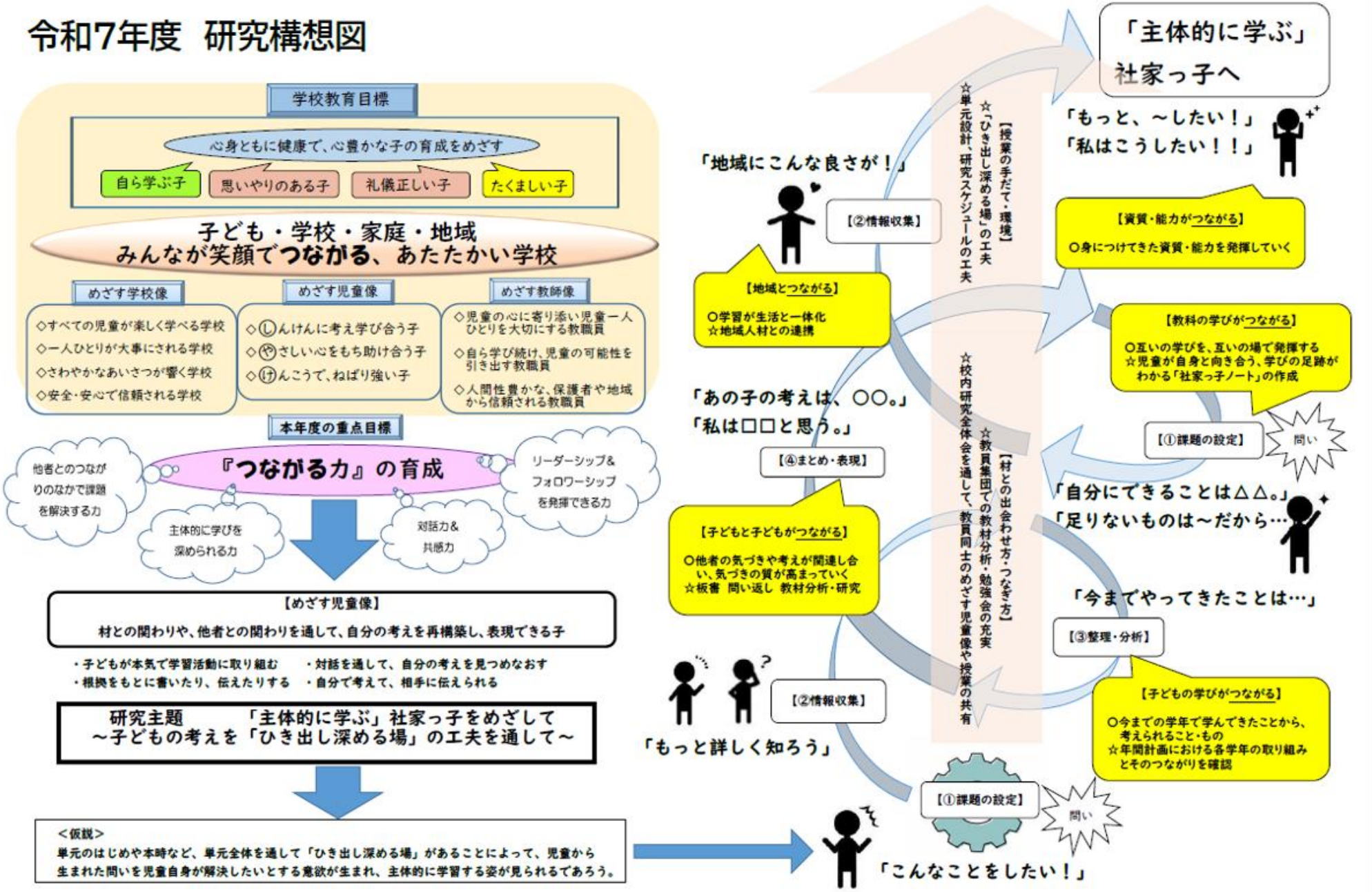
本校の校内授業研究では、主題と副題を「『主体的に学ぶ』社家っ子をめざして～子どもの考えを『ひき出し深める場』の工夫を通して～」として研究を行ってきました。「主体的な姿」とは、児童自らが学習中の「疑問」や「わからないこと」を明らかにし、他者と関わり合い、協働して学びの質を高めていく姿と定義しています。具体的には、児童が学習を通して「もっと知りたい」「こんなことをやってみたい」と思える学習材と関わっていく中で、子ども自身が自分のすべきことを自分で決め、活動や議論を進めたり、子どもたちで学習をまとめたりする姿であり、子ども主体の活動が繰り広げられる授業を目指しています。

（３）「政治的教養を育む教育」との関わり

６年生の社会科の公民分野で扱う「国と政治」を題材とした授業がイメージされがちですが、「政治的教養を育む教育」、いわゆる主権者教育は、どの学習においても実践可能です。政治そのものの仕組みや政策について学ぶだけではなく、児童・生徒の発達の段階に応じて、自分の身の周りや住んでいるまち等の身近な問題から現実社会における社会的な諸問題まで、それらを自分のこととしてとらえ、話し合い、相手を尊重し、様々な意見を自分の中で考え合わせながら、合意形成のかたちを想定し、意思を決定する に至る過程を大切にして、社会参画につなげていく学習です。

本校で実践した２年生、６年生の両学年では、共にポイントとする学びのプロセスとして「他者の考えを聞き、自分の考えを（再）構築する」を取り上げ指導してきました。２年生は「自分の成長」、６年生は海老名市の名産「トマト」を授業の題材として扱い、他者との話し合いをとおして目指す児童の姿に育つよう指導してきました。学習のめあてや課題解決に迫る過程において、自分の考えをもち、他者との考えから自分の考えを見つめ直すことで、その後の話し合いの質を高めるから、上述した校内授業研究のテーマと関連付けています。

令和7年度　研究構想図


学校教育目標
心身ともに健康で、心豊かな子の育成をめざす
自ら学ぶ子
思いやりのある子
礼儀正しい子
たくましい子
子ども・学校・家庭・地域
みんなが笑顔でつながる、あたたかい学校
めざす学校像
◇すべての児童が楽しく学べる学校
◇一人ひとりが大事にされる学校
◇さわやかなあいさつが響く学校
◇安全・安心で信頼される学校
めざす児童像
◇Ⓛんけんに考え学び合う子
◇Ⓨさしい心をもち助け合う子
◇Ⓖんこうで、ねばり強い子
めざす教師像
◇児童の心に寄り添い児童一人ひとりを大切にする教職員
◇自ら学び続け、児童の可能性を引き出す教職員
◇人間性豊かな、保護者や地域から信頼される教職員
本年度の重点目標
他者とのつながりのなかで課題を解決する力
『つながる力』の育成
リーダーシップ&フォロワーシップを発揮できる力
主体的に学びを深められる力
対話力&共感力
【めざす児童像】
村との関わりや、他者との関わりを通して、自分の考えを再構築し、表現できる子
・子どもが本気で学習活動に取り組む
・根拠をもとに書いたり、伝えたりする
・対話を通して、自分の考えを見つめなおす
・自分で考えて、相手に伝えられる
研究主題　「主体的に学ぶ」社家っ子をめざして
～子どもの考えを「ひき出し深める場」の工夫を通して～
＜仮説＞
単元のはじめや本時など、単元全体を通して「ひき出し深める場」があることによって、児童から生まれた問いを児童自身が解決したいとする意欲が生まれ、主体的に学習する姿が見られるであろう。
「こんなことをしたい！」
【①課題の設定】
問い
「もっと詳しく知ろう」
【②情報収集】
【子どもと子どもがつながる】
○他者の気づきや考えが関連し合い、気づきの質が高まっていく
☆板書　問い返し　教材分析・研究
「あの子の考えは、○○。」
「私は□□と思う。」
【④まとめ・表現】
「地域にこんな良さが！」
【②情報収集】
【地域とつながる】
○学習が生活と一体化
☆地域人材との連携
【授業の手だて・環境】
☆「ひき出し深める場」の工夫
☆単元設計、研究スケジュールの工夫
☆校内研究全体会を通して、教員同士のめざす児童像や授業の共有
【材との出会わせ方・つなぎ方】
☆教員集団での教材分析・勉強会の充実
「今までやってきたことは…」
【③整理・分析】
【子どもの学びがつながる】
○今までの学年で学んできたことから、考えられること・もの
☆年間計画における各学年の取り組みとそのつながりを確認
「自分にできることは△△。」
「足りないものは～だから…」
【①課題の設定】
問い
【教科の学びがつながる】
○互いの学びを、互いの場で発揮する
☆児童が自身と向き合う、学びの足跡がわかる「社家っ子ノート」の作成
【資質・能力がつながる】
○身につけてきた資質・能力を発揮していく
「もっと、～したい！」
「私はこうしたい！！」
「主体的に学ぶ」
社家っ子へ

Ⅱ　取組の様子１（海老名市立社家小学校・２年生　生活科）

①　単元計画

１．　単元名　これまでのわたし　これからのわたし

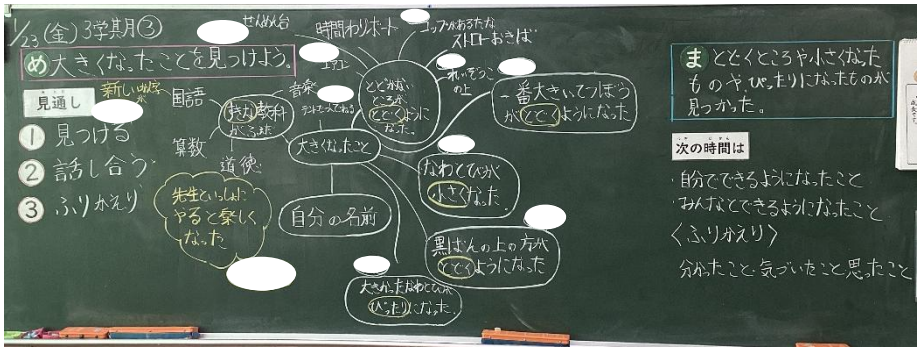
２．　単元の目標

自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分のことや支えてくれた人々について考えることができ、自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かるとともに、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとすることができる。

ポイントになる主な学びのプロセス　→　**他者の考えを聞き、自分の考えを構築する**

３．　指導計画（17 時間扱い）

ポイント1

	目指す姿（☆）・　ねらい（◇）・おもな学習内容（◆）
1	小単元①「大きくなった自分を振り返ろう」 ☆自分のことを知りたいという思いをもってこれまで（１年前・２年生になって）の生活や成長を振り返り、自分の成長に気付く姿 ◇これまで（１年前・２年生になって）の生活や成長を振り返り、自分が大きくなったこと、できるようになったこと、役割が増えたなどに気付くことができる。 ◆１年前（１年生の１月）の様子や気持ちを振り返るとともに、２年生の思い出動画を見て感想を書く。 ◆動画を見た感想を話し合い、成長を分類し、自分の成長を見つけていく見通しをもつ。 ◆成長したこと（大きくなったこと）について話し合う。 
本時	◆成長したことについて話し合い、「自分」や「みんな」でできるようになったことに気付く。 ◆みんなとできるようになったことを中心に見つけ、できるようになったことを「誰かの役に立っているか。」「誰かのためになっているか。」という視点で見つめ直す。
2	小単元②「自分の成長について調べよう」 ☆自分の成長やよさをもっと知りたいという思いをもって、話を聞いたり調べたりしながら、自分の成長やよさを言葉や絵で表したり、自分の成長を支えてくれた人々の存在や自分との関わりに気付いたりする姿 ◇自分の成長について調べる活動を通して、自分の成長やよさ、自分の成長を支えてくれた人々の存在や関わりに気付き、表すことができる。 ◆自分のことや成長についてもっと知るためにどんな方法があるかを話し合う。 ◆自分のことや成長についてもっと知るためにどう行うか（いつ、だれに、どうやって）について、話し合う。 ◆調べる内容を考えて、まとめる。

	◆「もっと知りたいこと」を調べ、分かったこと、気付いたこと、思ったことをまとめる。
3	小単元③「自分の成長をまとめよう」 ☆自分の成長を伝えたいという思いをもって、これまでの生活や出来事を思い浮かべながら、自分らしさや成長し続ける自分をまとめようとする姿 ◇自分の成長をまとめる中で、自分の成長について伝えたい内容や相手を決め、その内容を分かりやすくまとめる表現方法を選び、工夫してまとめることができる。 ◆調べて分かったことを話し合うとともに、自分の情報を整理し、成長とそれに関わる人を結びつける。 ◆自分の成長をまとめる方法を話し合い、決める。 ◆成長について、自分なりの方法でまとめる。
4	小単元④「成長した自分を伝えよう」 ☆これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、伝える活動を通して捉え直した自分の成長やよさ、可能性をこれからの生活に生かそうとする姿 ◇自分の成長を伝える活動を通して、自分を過去・現在・未来の視点でまとめ、自分の生活や成長を支えてくれた人に感謝の気持ちをもって、これからも意欲的に生活することができる。 ◆自分の成長を伝える。 ◆自分の成長を伝えたことを振り返り、まとめる。 ◆「これからの私（３年生に向けて）」を考え、まとめる。

ポイント1

自分のことから見出す、人との関わり

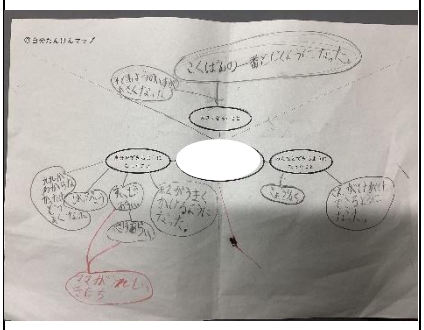
家庭や学校、地域での生活を振り返り、「自分と人とのつながり」に気付くことは、自分が社会の一員であることへの実感を育むことにつながります。自分の成長を起点にすることにより、他者への感謝や、共に支えて生きる意識が芽生え、「社会」への関心をもつ一歩となるような単元計画がポイントです。

②　本時の様子

１．本時の目標

成長したことを話し合う活動をとおして、２年生になって自分でできるようになったことや友だちとできるようになったことに気付くことができる。

２．本時の展開

過程	活動の流れ	ポイントになる 学びのプロセス
導入	○前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。（全体） ・前回の学習では、「体が大きくなった成長」を中心に話し合いました。 ・どのようなことから成長に気付けましたか。 先生 見た目でも記録でも、身長が伸びたことから分かりました。 １年生の時に履いていた靴がもう入らないことから分かりました。	

今日は、「できるようになったこと」から成長を見つけていきましょう。



先生

自分でできるようになったこと、友達とできるようになったことを見つけよう。

展開①

○自分でできるようになったこと・友達とできるようになったことを見つけ、見つけたことを話し合う。



発表を多くするようになった。



習っているサッカーが上手になった。



図工で絵が上手になった。

・そっか。授業のことでもいいのか。
・それじゃあ僕は、前は4の段が分からなかったけど、分かるようになった。



体育の時間に、みんなが水筒をきれいに置くことができるようになった。



誰かが話しているときに静かに聞くことができるようになった。

音楽発表会で、みんなで音をそろえることができた。



どうして成長に気付くことができたのかな。



先生



できなかったことが、できるようになったから。

見たり、聞いたりしたときに、きれいに揃っていたから。





2年生になったばかりの頃と比べたら、すぐに気付けた。

目指す子どもの姿

友達の考えを聞いたり、その考えに反応したりすること、自分の考えを話したり、反応してもらったりすることを通して、自分の考えに合う言葉や表現を見つける姿。

【様々な考えから、自分の考えを構築する①】

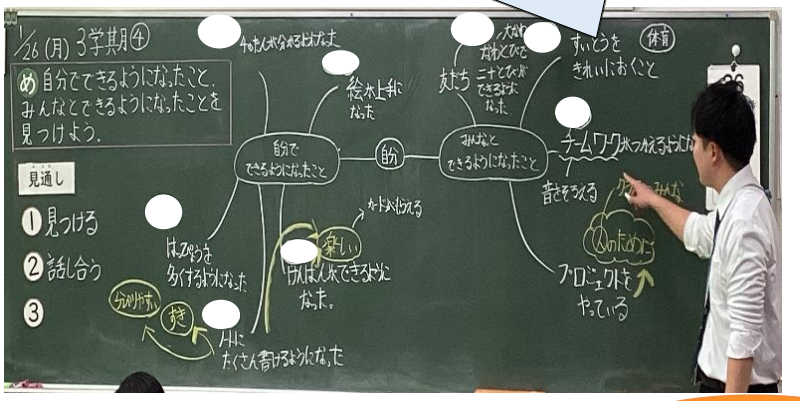
・友達の発言を復唱する進め方とすることで、友達の考えを捉える機会とした。

・児童の名前と発言を黒板に示すことで、必要に応じて見返した際、思い出しやすくすることをねらった。

・適宜理由を尋ねることで、その子らしさの発言をとおし、多様性に気付けるようにした。

展開②

・どうしてできるようになったのかな。
・みんなが考える理由を教えて。



ポイント2



みんなが頑張ったから！

楽しいから！





たしかに！好きだから！

必要なことだと思って、やり続けてきたから！





友達やおうちの人に手伝ってもらえたから！

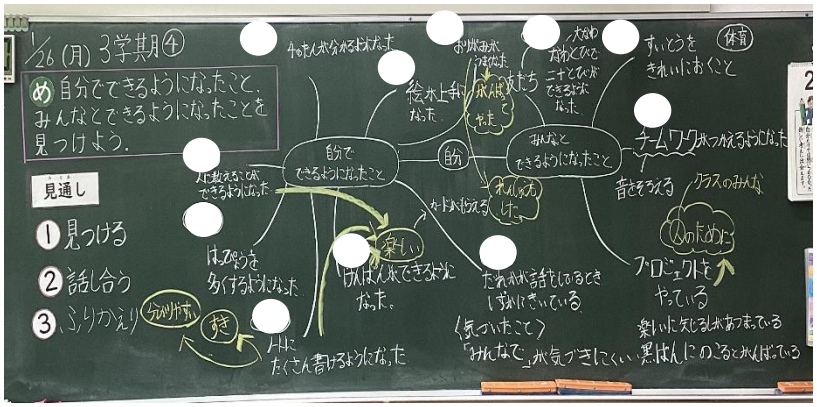
展開③

○黒板を見て気付いたことを話し合う。

・できるようになったことと、その理由についてたくさん発表してくれました。
・黒板を見て、気付くことはありますか。



先生



【様々な考えから、自分の考えを構築する②】

・必要に応じて掲示物を使い、場面のイメージをもつ手がかりにした。

・同じような内容を書いたかどうかを問い返しながら類別することで、友達の意見を整理して理解できるようにした。

・どうしてできるようになったのかを問い返し、その理由を聞くことで、できるようになる要因を表出させ、できるようになったことの共通点に気付けるようにした。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
矢印が集まっていることから、「楽しい」と感じることについて成長していることが分かった。
自分でできるようになったことと比べて、みんなでできるようになったことって気づきにくいのかなと思った。
成長している実感はあるから、見つけづらいってことなんだと思うな。

</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>まとめ</td>
<td>
〇本時の学習のまとめをし、次時の見通しを立てる。
・自分でできるようになったことには、「好き・楽しい」や「身近な人との関わり」がかくれていたね。
・次の時間は、みんなでできるようになったことについて、もっと広げていこう。

先生
〇振り返りを記入する。
自分でできるようになったことが増えた。これからも頑張りたい。

自分もみんなも、成長しているなと思った。
何かを練習しているときに助けてくれる人がいたことが分かった。
たくさん書くことができたし、隣の子もたくさん書いていた。
</td>
<td>
【様々な考えから、自分の考えを構築する③】
振り返りのワークシートを３種類用意し、各自が表現しやすい様式を選べるようにする。
</td>
</tr>
</table>

ポイント2

考えの構築に向けた、発達段階に応じた板書の工夫

授業中に子どもたちの発言を類別し、名前と発言内容を記録することで、自分の意見が友達の意見とどうつながるかを視覚的に示すことができます。これにより、子どもたちの必要に感じたタイミングで授業の流れを振り返りやすくなり、対話的で深い学びを促進することができます。

③　研究協議

1．研究協議のテーマ

「様々な考えから、自分の考えの構築へと向かっている子どもの姿～『人』とのどんな関わりに起因していたか。」

2．成果と課題、参観者の意見

成果

・子どもたちの発言を板書で整理する過程で、「同じ」「似ている」「少し異なる」など、相違を確認しながら展開していくことで、子どもたちは自身と友達の考えを結び付けながら考え、発言しながら課題解決に向かっていた。
・頻繁に設定されていたペアで伝え合う時間が、自身の考えを言語化する機会となり、考えを構築する後押しとなっていた。
・教員と自身の考えを伝え合うやり取りをとおして、自身の考えの構築を深めていっていくプロセスも見られた。

課題

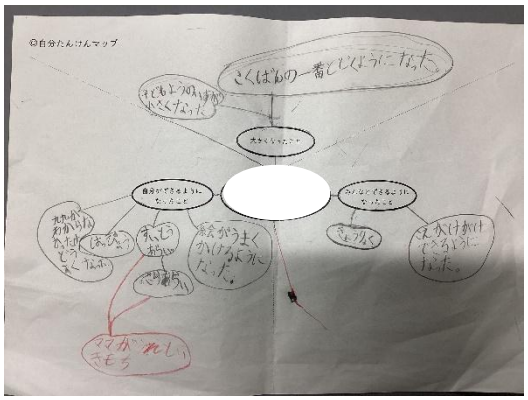
・「自分自身の成長」と「２年生全体の成長」について同時に扱われていたが、２年生という発達段階を鑑みると、「自分自身の成長」を完結させた後、「２年生全体としての成長」という展開が適していたのではないか。
・能力的に自分自身でできるようになったことから、係活動や家庭での手伝いについて「与えられる役割が増えた」というアプローチをしていくことで、「他者との関わり」という視点に自然とつなげられたと考えられる。

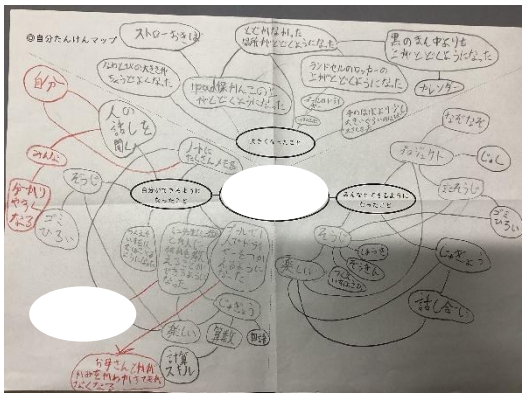
④　事後の取組

第５時はみんなとできるようになったことを中心に、プリント（自分たんけんマップ）に書き足していく時間をとった。その中で児童は、自分一人の力だけでなく、周囲の友だちや家族、先生といった「誰かの助け」があったことでできるようになったことがあるということに気づいていった。

さらに学習を深めるため、できるようになったことが「誰かの役に立っているか。」「誰かのためになっているか。」という視点で見つめ直させた。プリント（自分たんけんマップ）を再確認し、赤鉛筆で書き足す活動を通して、「楽しく過ごせる。」「コツを教えることができる。」「大人（お家の人）を喜ばすことができる。」といった考えがうまれ、他者への貢献や自己有用感の芽生えが見られた。

一方で、友達の発言を聞いてその良さを認めることはできるものの、自分のことになると何が役に立っているのか、誰の役に立っているのかが分からないという意見も生まれた。自分の良さを客観的に捉えることの難しさを表出させ、次の時間に進んだ。





第６時では、「自分のことをもっと知るためにどんな方法があるのか。」を議題に話し合った。最終的に、３つの活動へと集約されたため、第７時では、どう行うか（いつ、だれに、どうやって）について話し合った。３つの活動について、１つ目は、「友達の『いいな』と思うところをメモして伝えること」、２つ目は、「自分らしさをカードや付箋に書いてもらうこと」、３つ目は「３年生など、憧れの人に話を聞いたり、調べたりすること」と決めた。１つ目、２つ目の活動は、互いに見取りその良さを見つけること、他者の視点を受容することを大事にしていきたい。３つ目の活動は、個々の憧れの人だけでなく３年生を対象とする時間をとることで、自分たちの少し先の未来を具体的に描き、成長への期待感を高める機会としたいと考えている。

これらの活動を通して、児童が他者からの言葉をきちんと受け止め、自分にしかない「成長」と「自分らしさ」を再発見しながら自信をもって次の一歩を踏み出せるように、指導を継続していきたい。

